

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21224013	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	超高压地球化学:地球中心核の化学進化	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	平田 岳史 (京都大学・大学院理学研究科・教授)

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、地球中心核の親鉄性元素の分配を解明することを最終目標とした野心的な研究で、これまでにない超高压実験技術と微小領域分析技術の開発を前提にしている。これまでに、研究の要となるこうした技術の開発はほぼ終了、あるいは達成間近な段階にきている。その成果は国際的にも高く評価され、研究は順調に進展していると判断できる。今後、研究の主たる目標である「地球中心核における元素分配の解明」に向けて、実験担当の研究者との連携をさらに密にして、効果的に研究を展開することを期待する。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部上がらなかった。
A-	<p>本研究の課題の一つである「超高压下での超微量元素分析技術開発」においては、10年後まで維持可能な世界最高レベルの分析体制が構築され、期待以上の成果が得られ国際的にも高く評価されている。</p> <p>一方で、本研究の究極の課題である「地球中心核における元素分配の解明」については、平成24年度の研究進捗評価では実験担当研究者との連携による研究が期待されたが、期待どおりの成果を達成するまでには至っていない。様々な圧力条件下での親鉄性元素分配実験が開始されデータの解析が行われているようであるが、研究分担者との共著による学会発表・論文執筆までには至っていない。共著論文発表により成果を公表することが必要である。</p>